

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年2月28日現在

今月の重点活動

■担い手育成 **平成29年度岐阜地域普及活動等成果発表会開催**

2月6日、シンクタンク庁舎において、岐阜地域普及活動等成果検討会を開催した。発表会には、管内の指導農業士や青年農業士等農業者、岐阜就農応援隊及び関係機関の職員等、93名の参加があり、普及活動事例2題、事例1題の発表と先進農家の講演を行った。

普及活動事例では、「にんじん産地の構造改革への取組」、「新たに法人化した(農)あおなみの経営安定に向けた支援」と題して、これまでの普及活動成果について紹介した。

また、JAぎふ営農企画課職員から、「農業専用求人サイトの開設について」と題し、農業者の労働補完に関する取組について事例発表があった。

最後に、広島県の株式会社藤本農園代表取締役藤本聡氏から、「ICT技術の農業経営への活用」と題して、会社経営から販売戦略、ICT活用についてと多方面にわたり、示唆に富む講演をいただいた。
(地域支援第一係・山田和彦)



【普及事例発表の様子】

多様な担い手づくり

■えだまめ・ほうれんそう **家族経営協定調印式**

2月2日、JAぎふ島支店において、県、岐阜市、JAぎふ立会の下、岐阜市島地区の生産者の家族経営協定調印式が行われた。

この協定では、「楽しいメリハリのある農業」を目標に、就業時間や役割分担などについて取り決めし、岐阜管内では今年3件目、岐阜市では5年ぶりの締結となった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、家族経営協定の推進を図ると共に、個々の農業経営改善や産地の発展につながるよう支援していく。



【調印式の様子】

(園芸産地支援第一係・川部 知)

■農作業安全の啓発 **羽島市機械化農作業協議会役員会開催**

2月19日、JAぎふ正木支店において、羽島市機械化農作業協議会役員会が開催され、平成30年産水稻作業に係る春季農作業料金の設定について検討した。値上げを希望する意見もあったが、料金は現状維持とすることで決定した。

農業普及課からは、平成30年産に向けた土づくり等の管理を説明するとともに、稲作シーズンを前に農業機械作業の安全啓発を行った。役員からは、「慣れが一番怖い。気を付けないといけない。」との声が聞かれた。

農業普及課では、今後も、栽培管理指導と併せ農作業安全についても啓発していく。

(地域支援第二係・今井啓司)



【役員会の様子】

売れるブランドづくり

■水稻 **不耕起V溝直播栽培講習会開催**

2月14日に、JAぎふ北方支店において、本巣地域の担い手を対象に不耕起V溝直播栽培講習会が開催された。この技術は、比較的時間に余裕のある冬季に代かきをし、5月上旬に直播することで作業分散および省力化が図れることが特徴であり、関心を示した4経営体が出席した。

農業普及課からは、V溝直播栽培のポイントについて説明し、理解を得ることができ、

各経営体は農機メーカーから播種機を借りて20～50a程度を試作することとなった。
今後は、栽培技術支援をする予定である。(地域支援第三係・岡田隆史)

■岐阜市園芸振興会 GAP運営委員会で次年度方針などを協議

2月21日、岐阜市内のホテルにおいて、岐阜市園芸振興会だ
いこん部会・ほうれんそう部会などの役員、JAぎふ担当者な
ど関係者が出席し、GAP運営委員会が開催された。4部会の
各部長から、平成30年度の各部会のGAPの取組みについて
報告があり、GAPの取組みについて意識統一や情報共有を図
った。

農業普及課からは、今年度実施したJAえだまめ部会現地調
査結果など、本県GAP確認制度の推進に向け情報提供した。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、GAPの取組みを関係機関と連
携して推進する中、今後も農業普及課はGAPの更なるステップアップを支援していく。

(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知)



【GAP運営委員会の様子】

■いちご いちごパッキングセンター実態調査

2月7日、園芸産地収益力強化支援事業を活用し、JAぎふいちご
パッキングセンターの経営改善に向けた実態調査を行った。

農業技術革新工学研究センターの博士2名を招き、パッキングセン
ターの稼働状況を確認しながら、改善点の指摘を受けた。また、効率
的な作業員の動線や、道具、資材の配置、生産者段階で気を付けるべ
き点などについてアドバイスがあった。さらに、撮影したビデオを分
析したうえで、詳細な改善対策案の報告を後日受けることとしている。

農業普及課は、いちごパッキングセンターの改善に向け、継続して支援していく。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【調査の様子】

■スイートコーン 栽培研修会開催

2月5日、JAぎふ各務原中央営業所において、各務原市園芸振
興会スイートコーン部会が栽培研修会を開催した。早出し出荷のため
保温資材費は要するものの、栽培が簡易なことから定年帰農者
や専業農家の追加品目として人気があり、生産者は1名増え32名
となっている。

高単価の早生品種の栽培面積を増やし、単価の下がってくる7月
10日をめどに出荷を終了することを確認した。農業普及課からは、
栽培管理と早生推奨品種試験の継続実施について説明した。



【栽培研修会の様子】

(地域支援第二係・魚住雅信)

■柿 ねおスイート苗配布

管内で、岐阜県初の柿オリジナル品種「ねおスイート」の普及拡大
が進んでいる。

2月14日に、マル糸柿振興会で作られた苗木約600本を生産者・
関係機関で掘り上げ、2月15日に、マル糸柿振興会の生産者に約500
本、岐阜市かき共販振興会の生産者に約100本を配布し、併せて植え
付け等の研修会を行った。

3月1日には、瑞穂市柿振興会で約80本、4名の生産者に配布する予定であり、本年度管内全
体では、24名、約3haとなる見込みである。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【研修会の様子】